

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成29年6月23日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：松浦長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めたいと思います。

○松浦総務課長 それでは、本日は私から2点報告がございます。

まず、1点目ですけれども、こちらは本日の報道で研究炉学生に身元調査という報道がありましたので、その件に関して、事実関係を私の方から申し上げたいと思います。

いわゆるこの身元調査という話は、個人の信頼性確認制度に関連するものですけれども、大学に設置された試験用原子炉を対象とした個人の信頼性確認制度の導入について、現在検討中ではございますけれども、導入を決定したり、また、導入について大学に要請したりという事実はございません。現在は大学からその実情をヒアリング中の状況でございます。

大学側からは、いわゆる学生の取扱いについてヒアリングした内容に関しまして、現時点における原子力規制庁としての認識は以下のとおりでございます。

学部生については、他の安全上の観点からも、教員等の付き添いなく核燃料物質や原子炉を取り扱うことなく、対象とならないと聞いております。大学院生については、個々の状況によって対象となることもあり得ると聞いております。また、対象者が虚偽申告を行ったことのみを理由として、大学が行政処分を受けることはないということでございます。

以上が事実関係でございます。

続きまして、広報日程について、私から補足説明をしたいと思います。

まず、広報日程の1ページ目、2.、本日6月23日の審査会合でございます。議題は2つございます。

まず、電源開発・大間発電所につきまして、敷地内破砕帯評価のコメント回答を電源開発から頂く予定でございます。

その後、北陸電力・志賀発電所につきまして、同じく敷地内の破砕帯評価について、コメント回答を北陸電力の方から伺う予定でございます。

続きまして、2ページ目、6月26日月曜日、一番下段になりますけれども、(6)番、第4回のもんじゅ廃止措置安全監視チームの会合でございます。

議題といたしましては、6月13日に文科省の方でもんじゅの廃止措置に関しますいわゆ

る基本の方針、また、JAEAの方で基本的計画が決定されたところでございます。これを踏まえまして、今後、燃料取り出し工程に係る課題、5年半燃料取り出しにかかるというふうにJAEAの方で計画しておりますけれども、その具体的な今後の課題とスケジュールについて、お話を伺う予定でございます。

続きまして、3ページ目、6月27日火曜日、(8)番、原子力委員会と原子力規制委員会との意見交換会でございます。こちらは昨年7月20日に同じく意見交換会を行ったところでございますけれども、その際、人材育成について議論をしたところでございます。今回も引き続き人材育成をメインテーマとして、原子力委員会と原子力規制委員会で意見交換をする予定でございます。

続きまして、(9)番の審査会合でございます。こちらはいわゆる特重施設のために非公開とさせていただきますが、議題といたしましては、四国電力・伊方発電所3号機の特重施設について、フィルタベントの除去効率について、コメント回答を四国電力の方から伺う予定でございます。

続きまして、議題の2番目は、関西電力の高浜発電所1号機、2号機に係ります特重施設について、施設の耐震設計方針のコメント回答を関西電力の方から伺う予定でございます。

続きまして、同じく3ページ目一番下でございます。(11)番の審査会合でございます。

こちらは、まず、議題といたしまして、九州電力・玄海発電所3号機、4号機及び関西電力・大飯発電所3号機、4号機につきまして、こちらは合同で保安規定の変更について九州電力と関西電力の方からお話を伺う予定でございます。

引き続き議題の2番目といたしましては、東京電力の柏崎刈羽発電所6号機、7号機につきまして、先日、東京電力の廣瀬社長が原子力規制委員会で体制の変更についてお話しされましたけれども、そのとき用いられた資料について、補足説明を東京電力の方から伺う予定でございます。

続きまして、4ページ目、6月28日水曜日、(12)番、特定原子力施設監視・評価検討会でございます。議題は3つございます。

まず、議題の1番目は、建屋滞留水における放射性物質量の低減についてでございますけれども、2020年を目標に定められています滞留水の除去について、その進捗状況について東京電力の方からお話を伺う予定でございます。

議題の2番目は、1号機オペレーティングフロアの調査でございます。1号原子炉建屋内でのがれき撤去作業の際に出ますダスト飛散の防止対策について、東京電力の方からお話を伺う予定でございます。

議題の3番目は、原子炉格納容器内の調査でございます。1号機、2号機については、その調査について行ったところでございますので、総括を伺うとともに、今後予定されております3号機の調査について、東京電力の方からお話を伺う予定でございます。

私からは以上です。

<質疑応答>

○司会 それでは、質問をお受けしたいと思います。それでは、いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

では、質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。スミさん。

○記者 共同通信のスミです。

最初に、ちょっと言われてあれなのですけれども、全然別のことをお聞きするのですが、大洗の方に今日も立入調査に入っていると思うのですけれども、今日はどういったことをされるのかというのが1点と、もう一つは、立入調査をされるに当たって、そもそもどういう着地点というか、どういうところを目指して立入調査をしているのか。定例会合を聞いていても、そもそももう全てが駄目なので、一から調査みたいな話になるかもしれないのですけれども、何かこういうところを明らかにするというのは、何か落としどころの狙いがあるのでしょうか。

○松浦総務課長 まず、本日举行う調査については、先日、第1回目の立入検査をしましたけれども、その継続ということで、本日も大洗に、本日は本庁から3名と現地調査官2名、計5名で立入検査をしていますけれども、引き続き大洗の担当の方からお話を伺うということで、作業の実情と計画について、先日に聞き取れなかったことを改めて詳しくお話を伺うということでございます。

あと、御質問のありました着地点ということですのでけれども、まずは、事実関係について、必ずしもはっきりしないことがございます。それについて、まず立入検査で事実関係をしっかり原子力規制庁、事務方として把握して、しかるべきときに原子力規制委員会に報告するということですので、ある意味で着地点というのは、事実関係をしっかり把握してから原子力規制委員会で議論するものと考えております。

○記者 発想が貧困で申し訳ないのですけれども、例えば捜査機関だと、こういった容疑があつて、おそらくこういう事件で、こういう原因があろうという絵を描いて、それを検証するような形で資料を収集したりとか、ヒアリングということで調査をされてということになると思うのですけれども、そういう何らかのここが怪しいとか、いわゆる容疑みたいな、こういうものがあるというのではなくて、そもそも全体的に規制委員会として検証というか、確認する必要があるという、そういう理解でよろしいのですか。

○松浦総務課長 我々は捜査機関ではありませんので、容疑とか、そういった言葉遣いをするというのは余り適切ではないと思いますけれども、ただ、当然、許可をしておりますし、保安規定というのもございますので、当然、それに違反しているか、していないかというのは今回の立入検査の一つの要素になっていると考えております。

○記者 最後にもう一点なのですけれども、たしか予定では、今日、また作業の方が退院されると思うのですけれども、その作業の方への直接のヒアリングというのは近く行われるのでしょうか。例えば今日であるとかですね。

○松浦総務課長 本日は予定されていないと聞いています。当然、作業員の方の体調等もありますし、今後どうするかについては、本日、検査に行っている者が帰ってきますので、その報告を聞いて事務方でまずは検討するものだと思います。

○司会 ほかに質問のある方は。では、ハナダさん。

○記者 NHKのハナダです。

原子力委員会との意見交換会なのですからけれども、人材育成について意見交換をするというお話でしたけれども、特に人材、もう少し具体的に例えばどの分野とか、こういった面での人材育成とかというふうなものが議題としてあれば教えてください。

○松浦総務課長 原子力規制委員会ですので、幅広く原子力人材という意味で、特定の分野に限らず意見交換をするものと思われまして、先日の規制委員会の議題でも、炉主任の試験について、懸念が委員からも示されているところもありますので、そういった面も含めて、トータルのオールジャパンとしての原子力人材について意見交換されるものと考えております。

○記者 分かりました。

あと、これはもう出ていたら、話として以前に説明があったら恐縮なのですが、27日の日本原電との臨時会、社長との臨時会だと思うのですが、前の委員会での更田さんのお話を聞くと、審査の延長までの期限がある上、津波防護、防潮堤とか、なかなか時間がかかりそうな審査を抱えているので、そのあたりを伺いたいというお話だったと記憶があるのですが、基本的には防潮堤とかの今後の審査対応とかが中心になるという理解でよろしいのでしょうか。

○松浦総務課長 更田委員の発案で今回の会合がセットされていますので、まさに委員会で更田委員がおっしゃられたとおりでと思います。

○記者 分かりました。

○司会 では、毎日のスズキさん。

○記者 毎日新聞のスズキです。

昨日、文科省の特命チームの方で、大洗の事故に関して、破裂した容器の中に樹脂が入っていたということで、それが破裂した要因の可能性があるという指摘だったので、規制委のこれまでのJAEAの面談で、そういう事実は向こうから説明がなかったようなことを聞いているのですが、今のJAEAの規制委に対する姿勢というか、その辺について何か考えることはありますか。

○松浦総務課長 特に私から、JAEAの姿勢について事務方として申し上げることはないと思います。姿勢というか、体質については、委員長がもう既に委員長の記者会見で申し上げていることですので、それ以上のことは特に私から申し上げることはありません。

○司会 ヨシノさん。

○記者 テレビ朝日、ヨシノです。

3ページが一番下、(11)の新規制基準適合性会合ですけれども、ちょっと不勉強で申し訳ないのですが、九電の玄海3・4、大飯3・4の保安規定変更ですが、もう少し具体的に教えていただけますか。

○松浦総務課長 こちらは両方とも設置変更許可を出されたところですので、今、工事計画認可の審査中です。御承知のように、新規制基準に対応するためには保安規定の変更を様々しないといけない。共通事項も多いということなので、そういった意味で、今回、保安規定についても審査するということです。

○記者 従前のものと、例えば、ほかの炉と余り変わらない感じですか。今までやってきたのと同じ変更ということですか。

○松浦総務課長 中身的には何か特別に特例があるとか、そういったことは聞いておりません。

○記者 それから、もう一点なのですけれども、柏崎刈羽の6・7号機の体制とおっしゃったと思うのですけれども、これは申請書の補正をどうチェックしてきたかということを追加で聞くのでしょうか。

○松浦総務課長 先日、廣瀬社長が資料を出されて、どういった体制でこの審査書についてしっかり見直してきたかということと、今後どうするかということについて、お話しされましたので、それについてももう少し詳しくお話を伺うということですが。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに質問はありますか。

ないようであれば、これで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

—了—